

2010年11月20日発行

秋田大学

## 国際交流センターニュース 第4号

Akita University International Exchange Center News

発行者： 国立大学法人秋田大学国際交流センター 〒010-8502 秋田市手形学園町1-1  
<http://www.pcix.akita-u.ac.jp/inter/> 電話：(018) 889-2856 kokusai@jimu.akita-u.ac.jp

- ・短期留学プログラム AUEP 始動 (1)
- ・モンゴル2大学と大学間協定締結 (1)
- ・ヨーロッパへ協定校広がる (1)
- ・協定校からの秋大訪問 (2)
- ・ブカレスト大生がオープンキャンパス応援 (2)
- ・日本の文化に親しもう (3)
- ・外国人学生のための進学説明会 in 東京・大阪 (3)
- ・スタッフ紹介4 伊藤いづみ、馬曉艶 (3)
- ・専任教員からひとこと 西田文信 (3)
- ・台湾の協定校とのさらなる交流発展を目指して (4)
- ・国際交流推進役・就任ご挨拶 高橋嘉行 (4)
- ・バーベキューお別れパーティー (4)
- ・お知らせ—お茶っこ飲み・ミニ講座 (4)

## ○ 短期留学プログラム AUEP 始動

7か国・20名の新留学生在秋田大学にやってきました。アメリカ、韓国、中国、フィンランド、ケニア、台湾、インドネシアから来た留学生たちは、まずは10月4日(月)の歓迎イベントに参加しました。日本語レベル分けテスト、オリエンテーション、キャンパス・ツアー、そして個別チューターとの歓迎会と盛りだくさんの内容をこなし、翌日には本格的に授業の受講も始まりました。

今回の新留学生のうち、15名はこの10月に新たに始まった秋田大学独自の短期留学プログラム AUEP: Akita University Experiential Program に参加します。このプログラムは主に日本語をほとんど学んだことがない学生を対象とするもので、参加者は英語等による授業と日本語の授業を約1年間にわたり受講します。

特にユニークなのは秋田・東北ならではの体験的学びを取り入れている点でしょう。テリー・リー・ナガハシ准教授(教育文化学部)による「日本文化入門」では農家民泊を体験、宮本律子教授(教育文化学部・本センター副センター長)による「多文化交流論」では北東北国立三大学合同合宿に参加することができます。これらの授業は教養基礎教育科目であり留学生以外の学生も受講可能です。さまざまな学生たちが集うプログラムとしての今後の発展が期待されます。

(牲川波都季：SEGAWA, Hazuki — 国際交流センター)



## ○ モンゴル2大学と大学間協定締結

### ● イフザサグ大学・モンゴル教育大学……………

秋田大学は7月下旬、吉村昇学長がモンゴルを訪問し、イフザサグ大学、モンゴル国立教育大学それぞれと国際交流協定を締結しました。豊富な地下資源を有するモンゴルですが、国内には鉱山学の専門家が不足しています。その人材を養成するためイフザサグ大学では鉱山学系学部の設置を検討しており、秋田大学は国際資源学教育研究センターが中心となりサポートを行います。また、教育大学とは本学の教育文化学部を中心とした連携が期待されます。



写真：右からパウウさんとスガルさん。夫妻ともに秋大卒業生で、スガルさんは、この十文字ラーメン店を経営する。

秋田大学は国際資源学教育研究センターを中心に、資源学を通じた国際貢献活動に取り組んでいます。アフリカのボツワナに続きアジアのモンゴルも舞台に、資源学を軸として、他の分野も組み込んだ多角的な国際連携が

本格化します。(宮本律子：MIYAMOTO, Ritsuko — 教育文化学部国際コミュニケーション講座)

## ○ ヨーロッパへ協定校広がる

### ● ブカレスト大学・キャリア大学……………

去る9月28日に国際交流協定締結のため、ルーマニアのブカレスト大学を訪問しました。あらかじめ本学側で吉村学長の署名済み協定書を持参し、ブカレスト大学学長室においてイオアン・パンザル学長により協定書に署名を受け、同日をもって秋田大学とブカレスト大学間の国際交流協定が発効しました。調印後には今後の両大学間の交流について、パンザル学長と本学の榎本国際交流センター長、宮本副センター長との間で意見交換を行いました。



写真：榎本センター長とパンザル・ブカレスト大学長

また9月30日には、昨年12月に協定校となったイタリア・キャリア大学を訪問し、ジョバンナ・マリア・レッダ国際交流担当副学長らと面会し今後の留学生交流について協議しました。ヨーロッパとの交流も盛んになることを期待します。

(笹村和雄：SASAMURA, Kazuo — 国際交流課長)

## 協定校からの秋大訪問

### ● 円光大学（韓国） 羅勇虎学長一行

8月3日に、韓国の協定校である円光（ウォンガン）大学から、羅勇虎（ナ・ヨンホ）学長ご夫妻らが本学を訪問され、学長および教育文化学部長との懇談や、多文化交流ラウンジの視察を行いました。また、前日夜には同大学からの留学生やそのチューター、「コリアサークル」学生及び



写真：左から吉村学長，羅勇虎  
円光大学長，榎本センター長

留学生との交流をすすめる市民サークル「ハングッこの会」の皆さんとの懇談会も行われました。学長との懇談の席で羅学長は、このような交流が盛んなので秋田への留学を希望する学生が多い、と

いうお話をしてくださいました。教職員のみならず、学生や市民と留学生との非制度的な交流が重要であることを感じ取っていただけましたようでした。（高村竜平：TAKAMURA, Ryohei — 教育文化学部日本・アジア文化講座）

### ● ハンバット大学（韓国）

#### 中小企業産学協力センター・具本及教授ほか

6月29日、韓国ハンバット大学校中小企業産学協力センターの具本及（グ・ボングプ）教授を中心とした視察団が来訪されました。この訪問団は韓国・大田市内の4大学で産学協力を担当する教職員から構成されたもので、産学連携機構及びVBLについての質疑と施設見学を行いました。皆さん熱心に質問されていましたが、この際、ハンバット大学からの交換留学生が通訳として活躍してくれました。

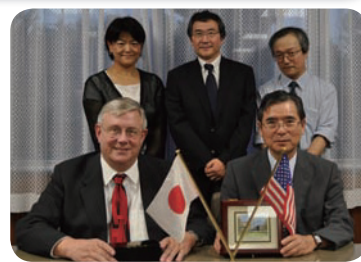
#### 日本語科・趙南星教授

また、8月2日から7日にかけて、同大学日本語科の趙南星（チョ・ナムソン）教授が秋田に滞在されました。5日には本学に訪問され、宮本副センター長と牲川センター准教授との懇談もありました。学科長の任期を終えての小旅行でしたが、留学生会館・国際交流会館・多文化交流ラウンジなど、留学生の生活状況について視察され、5日に開かれたバーベキューパーティにも参加してくださいました。（高村竜平：TAKAMURA, Ryohei — 教育文化学部日本・アジア文化講座）

### ● セント・クラウド州立大学（アメリカ）ポター学長

去る9月17日、30年以上にわたって交流が続いている合衆国セント・クラウド州立大学のアール・ポター学長が本学を表敬訪問し、吉村学長他、交流関係者と両校の将来について歓談しました。ポター学長はミネソタ州財界日本中国視察団の一行として来日し、ありがたいことに、視察のあと、ひとりだけ秋田に来てくれたのです。米中関係が

多面的な展開をみせる現在、日本は、日本の高等教育は、そして秋田大学は何をすべきなのか、考えさせられる機会でした。海外から注目されることをして



ゆかなければ、姉妹校関係ひとつであれ、発展はおろか存続も危ぶまれる時代となったことを私たちは肝に銘じるべきでしょう。（村上東：MURAKAMI, Akira — 教育文化学部欧米文化講座）

### ● ケニヤッタ大学（ケニア） 外国語学部ガチエ先生

8月18日、ケニヤッタ大学外国語学部で日本語を教えているキルリ・ガチエ先生が秋田大学を訪れました。キルリ先生はご自分の留学も含めて何回も日本に来たことがあり、今回は千葉から秋田まで新幹線で来られました。宮本と牲



川で10月から交換留学生として来るケニアの学生の履修方法などに関して情報交換をし、今後の学生交流の方策をじっくりと話し合いました。昼休みには生協の食堂も案内したところ、味噌ラーメンがとても美味しいと気に入ってくれたようでした。（宮本律子：MIYAMOTO, Ritsuko — 教育文化学部国際コミュニケーション講座）

## ブカレスト大学学生がオープンキャンパスを応援

8月5日から8月9日まで、ブカレスト大学の大学院生、アンドレア・ドゥラゴミルさんが秋田大学を訪問しました。



写真：左から西村さん、  
アンドレアさん、前野さん

8月7日のオープンキャンパスの日は、秋田大学の学生と一緒に、国際言語文化課程の紹介など、大変協力してくれました。その夜には、3月にブカレスト大学に短期留学した西村美里さんと前野さやかさんが、秋田名産を一緒に食べたり飲んだりして、旧交を温

めました。また、竿灯祭りの真最中で、特に昼竿灯では竿灯あげを体験し、賞状と記念品をもらいました。その他にも鹿角半島への日帰り旅行と市内観光など、秋田でのいい思い出と印象を持って、留学先である奈良へと岐路につきました。帰国後は彼女の見た秋田と秋田大学をブカレスト大学の学生に紹介する予定です。（モリタ・エマ：MORITA, Emma — 教育文化学部国際コミュニケーション講座）



## 日本の文化に親しもう

### ● 康楽館の芝居見学

6月26日(土)に、外国人留学生文化体験事業として、今年創建100周年を迎えた日本最古の芝居小屋である「康楽館」の芝居見学を実施しました。康楽館では、黒子姿のスタッフの案内のもと、回り舞台の仕組みを見学したり、「下町かぶき組」による芝居を鑑賞したりするなど、秋田の歴史建築や日本の芸術文化に対する理解を深めました。

この事業は、国際連合大学私費留学生育英資金貸与事業(UNU-FAP)受給者に対する優遇制度の一環として実施したもので、今年で3回目となります。今年度は28名(うちFAP受給者9名)が参加しました。

### ● 関西三都市物語

9月25日(土)から3日間、大阪・奈良・京都へ、留学生の見学旅行を実施しました。初日は大阪城天守閣と法隆寺を見学。大阪城では、公園内で記念撮影する参加者が多く、天守閣に入るまで一時間近くを要する一幕もありました。2日目は平城遷都1300年祭、東大寺、清水寺を見学。最終日は東映太秦映画村の見学後、嵐山で京都嵯峨料理を



味わいました。新型インフルエンザ対応のため、昨年秋の旅行が中止になったこともあり、今年は参加した31名の留学生の満足度が、特に高かったようです。

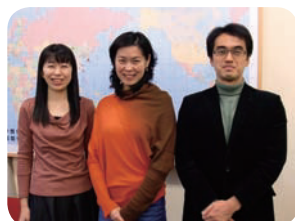
## 国際交流センター・スタッフ紹介 4

### ● 伊藤いづみ ITO, Izumi

2010年10月より国際交流担当に配属になりました。センターの庶務的な業務と大学間国際交流が主な仕事です。国際交流で秋田を訪れた方が、また来たいと思っていただけるよう頑張ります。趣味は美術作品鑑賞と散歩とイタズラです。また、食べることが大好きなので美味しいお店を発見したら是非教えてください。

### ● 馬曉艶 (马晓艳) MA, Xiaoyan

平成22年度秋田県海外技術研修員として、10月から12月の予定で秋田大学へ来ました。中国では甘肅省人民政府外事弁公室で、出国許可などを担当しています。甘肅省と秋田県は1982年8月5日に友好提携関係を締結しました。これから、秋田県と甘肅省の友好の架け橋になりたいです。



写真：左から伊藤，馬，西田

## 外国人学生のための進学説明会 in 東京・大阪

「外国人学生のための進学説明会」は、高等教育機関への進学準備をしている就学生・留学生対象の説明会です(日本学生支援機構主催)。7月11日の東京会場に、佐々木雅子教授(教育文化学部)・内田隆教授(工学資源学研究科)・加藤浩貴



主査(国際交流課)、7月18日の大阪会場に、寺境光俊教授(工学資源学研究科)・牲川波都季准教授(国際交流センター)・柳谷勉主査(入試課)が参加し、個別説明にあたりました。本学ブース来場者数は、東京が85名、大阪が42名で、特に東京は昨年の2倍以上となりました。(牲川波都季：SEGAWA, Hazuki — 国際交流センター)

東京会場来場者は4000人と昨年の1.5倍以上の盛況で、東南アジアを主とする外国人学生にとって日本留学への関心が強いことを実感しました。本学ブースへの来訪者も引きも切らず昼食を摂る時間ありませんでしたが、本学に在籍してきた先輩から良い評価を受けて来たことを示しており嬉しい限りです。日本政府の留学生30万人計画に伴い、今後も来場者の増加が予想されるため、より積極的な対応が必要であると思います。(内田隆：UCHIDA, Takashi — 工学資源学研究科地球資源学専攻)

## 専任教員からひとこと 西田文信

2010年8月1日付けで秋田大学国際交流センターの准教授を拝命致しました。留学生相談員もしております。これまで日本国内及び海外(ハワイ・香港・オランダ)で日本語・言語学等を教えて参りました。同時にアジア諸言語、特に中国の広東省・四川省及びブータン王国で話されている諸言語(消滅の危機に瀕した言語)の記述的研究に従事して参りました。これまでの研究・教育の原動力は、幼い頃抱いた、何故世界にはかくも多くの言語が存在するのか、という素朴な疑問にあります。その後言語との関わりを通じて、個別言語の表面のみを観察したら差異が強調されるけれども深層構造に目を向けると実は比較的単純な規則・制約に則っているのだ、という事が理解できました。

言語教育の究極的な目的は言語文化の相対化を通じて自己を相対化することであると考えております。今後も言語の面白さを多くの人に伝えられるような教育・研究をしていきたいと思っております。本センターのために微力ながら精一杯努力致す所存でございますので宜しくお願い致します。(西田文信：NISHIDA, Fuminobu — 国際交流センター)

## 台湾の協定校とのさらなる交流発展を目指して

7月、センターの牲川先生、加藤亜矢子さん、私の3名で、協定校の龍華科技大学、国立台北科技大学、明新科技大学を訪問する機会を得ました。3大学とも交流に意欲的で、これから交流が双方向になることを望まれていました。大学の歴史、組織、教育・研究分野、施設の紹介を聞き



写真：国立台北科技大学にて

ながら、交流によって互いに得るものがたくさんあり、双方向の交流が大切なことを私自身も強く感じました。双方向の交流の第一歩として、来年3月に台湾において、龍華科技大学、国立台北科技大学、秋田大学で、大学院生を対象にしたワークショップを開催する話し合いをしました。現在開催に向けて準備中ですが、このワークショップがきっかけになって、研究者・学生による継続的な相互交流が始まることを願っています。(玉本英夫：TAMAMOTO, Hideo — 工学資源学研究科情報工学専攻)

## 国際交流推進役・就任ご挨拶

### ● 高橋嘉行……………TAKAHASHI, Yoshiyuki

10月1日に国際交流推進役を拝命しました。秋田大学の国際化を後押しする役目に身が引き締まる思いです。これまで主にアフリカを舞台に仕事をしてきました。アフリカといえば、住み難い土地のイメージですが、のんびりした生活リズムは、とても自然なものです。一方、自然環境の破壊、部族間の争い、慢性的食糧不足やエイズ禍など大多数の国民は、過酷な生活を強いられています。最近、天然資源の開発を通じ経済成長が顕著ですが、これを持続させるためには日本など援助国や国際機関の支援が不可欠です。中でも人材育成が急務です。日本の高等教育機関には、この分野での貢献が大いに期待されています。国際協力は、他国を助ける事業ですが「情けは人の為ならず」の言葉通り、その成果は将来の日本に必ず戻って来ます。日本が国際社会で信頼され、感謝され、尊敬され続けるためにも、大学に課せられた役割は、猶、重要です。秋田大学の掲げる国際貢献、地域貢献の志を具現するため微力ながら尽くしたいと思っています。



## バーベキューお別れパーティー

8月4日(水)の夕方からバーベキューお別れパーティーが留学生会館で開かれました。当日は猛暑の中、数多くの留学生以外にも会館近隣にお住まいの方々が駆けつけてくださいました。開始直後から、お互い積極的に話しかける場面が数多く見られ、終始和やかな雰囲気にも包まれていました。留学生が肉や野菜を自主的に焼くなど頼もしい限りでした。



まったく初対面の学生もすっかり打ち解けた様子で、あちこちで笑い声が飛び交っていました。帰国する学生は秋田での経験を今後の活躍に活かし、母国と日本の懸け橋となってくれることでしょう。

(西田文信：NISHIDA, Fuminobu — 国際交流センター)

## お知らせ

### ● 留学生相談室「お茶っこ飲み」……………

#### International Student Counseling “Tea Time”

This semester's schedule

- Tue 14:00-16:00 (Sato, Multicultural Lounge)
- Wed 16:10-17:40 (Nishida, Nishida's Office)
- Thu 12:50-14:20 (Nishida, Nishida's Office)

留学生からの相談内容は、勉強、生活、人間関係等さまざまです。いかなる問題でも相談に乗りますので気軽に来室して下さい。相談内容については秘密を厳守します。

(西田文信：NISHIDA, Fuminobu — 国際交流センター)

### ● 多文化交流ラウンジでの「ミニ講座」……………

#### Mini Lectures at Multicultural Lounge

- 10月26日「なまはげ柴灯祭りに見る神道」  
森田智氏 (元バベシュ・ボヨイ大学文学部)
- 11月16日「秋田の歌っこ、うだったんせ」  
佐川馨准教授 (教育文化学部)
- 11月30日「ストレスマネジメントについて学ぶ」  
柴田健教授 (教育文化学部)
- 2011年1月 (調整中)

ジョー・サイクス助教 (教育推進総合センター)  
どれも火曜日 16:20 ~ 17:15, だれでも参加できます。

(佐藤雅彦：SATO, Masahiko — 日本語教育担当教員)

## 秋田大学の留学生数 (2010年11月1日現在)

▶ 学部生：91名   ▶ 大学院生：35名   ▶ 交換留学生・研究生等：39名   計：165名